

# 城里町における良食味米生産の挑戦を支援

県央農林事務所笠間地域農業改良普及センター

城里町の旧七会村地域は、蛍が生息するほどの清流「藤井川」が流れ、標高200メートル前後の丘陵地帯で気温の日較差も大きく、良食味米生産に有利な条件が揃っています。「JA常陸ななかいの里生産研究部会」は、平成7年に「七会やまびこ米生産研究会」として発足以来、消費者が安心して食べられる良食味米を生産するため、有機質肥料を使用した減化学肥料栽培、減農薬栽培に取り組み、一定の基準を満たすもののみ「ななかいの里コシヒカリ」として販売しています。普及センターは、適正な栽培管理の徹底、GAP取得、ドローン活用検討の推進を通して、良食味米生産を支援しました。

## 技術向上のための取組

部会では収量より食味を優先させた生産を行うために毎年4回の現地研修会を実施して、生育状況把握のための草丈、茎数、葉色の測定を行う他、12月の研修会では土壌診断・食味値の結果や栽培・気象記録の検証を行い、翌年の水稻栽培管理にフィードバックしています。

普及センターでは、毎年のデータの蓄積から、ほ場ごとに細かい栽培指導を行うことで、部会の良食味米生産技術の向上を支援しています。



写真1 現地研修会で全会員の圃場を巡回



写真2 知事にお米日本一コンテスト最高金賞受賞を報告

## 更なる食味向上・産地発展のための挑戦

部会員は全国規模の各種食味コンテストに積極的に出品してレベルアップに努めており、令和2年度も上位入賞を果たしています。その他、県GAP認証による安全安心のための取組、田植え体験などの消費者との交流活動も行っています。普及センターでは継続的に良食味産地を支えるため、GAPの導入支援、ドローンによる省力的防除や葉色判断についての検討、新規資材導入による水稻の食味等への影響調査を実施し、生産者の挑戦を支援しました。

## 品質に見合う価格で販売できる体制

上記の取組に加えて、①茨城県特別栽培農産物認証取得、②有機質に限定した施肥、③1.9mm選別、④食味計で測定した食味値区分、を行うことにより、買取価格の向上を実現しています。これにより、玄米30kgあたりの買取価格が1,500円～1,000円上積みされ、会員の収益増に寄与するとともに、技術向上のうえでのモチベーションになっています。普及センターでは今後もこの儲かる農業の実践を支援していきます。



写真3 JA常陸ななかいの里生産研究部会の皆さん